



校長式辞（第32回卒業証書授与式）

校舎から望む有珠や羊蹄の山々の風情、噴火湾の波光のきらめきに、いつにない早春の訪れを感じます。

希望と喜びの象徴であるようなこの佳き日に、伊達市教育委員会金子達也様をはじめ、多くのご来賓並びに保護者の皆様にご臨席を賜り、北海道伊達緑丘高等学校第32回卒業証書授与式を挙げていただけますことは、卒業生、在校生はもとより、私たち教職員にとりまして大きな喜びです。ご臨席を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与しました146名の生徒の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、入学以来のたゆまぬ努力が実を結び、ここにめでたく卒業の榮譽を得ました。心からお祝い申し上げます。

また、今日の日まで、慈愛とともに厳しくも指導してこられました学年主任の今先生をはじめとする担任の先生方、教職員の方々の尽力に心から敬意を表します。

さて、希望と期待を胸に、四月から、新しい場所で、新しい人間関係の中で、それぞれの道に歩み出す卒業生の皆さんが、生き甲斐に満ちた幸せな人生を築いていくことを願い、次の話をもって饒とします。

幕末の長州藩で若くして亡くなった勤王の志士、高杉晋作の辞世の句を紹介します。

『おもしろきこともなき世をおもしろく住みなすものは心なりけり』

「たいして楽しいこともないような人の生涯ではあるが、その人生をおもしろおかしく生きていくのは自分の心の持ちようひとつでいかようにもなる」と解釈できます。

この句で言う心の意味するもの、個人により、また、時代により様々に解釈できますが、これから社会へ巣立つ皆さんは、未来に対してどのような「心」を以て向き合っていけばよいのでしょうか。それは『想像力』だと思います。地球規模の気候変動のもたらす様々な深刻な問題。国家間での排他的で不寛容な傾向。AIやICTの普及に人類がどう折り合いをつけバランスを取っていくかが問われる時代にあって必要とされる心の在り方です。具体的には大きく三つあります。

一つ目は、他者に対して想像力を巡らせることです。相手の気持ちを自分のこととして置き換えて実感しようとするれば、いじめも戦争もなくなるでしょう。

二つ目は、自分を取り巻く情報に想像力を働かせることです。ただ情報を鵜呑みにせず、少しばかり想像力の窓を広げてみるができるようになれば、ネット情報に踊らされることも、自らの不用意な発信で非難を受けることも確実に避けることができます。

三つ目は、未来に対する想像力を磨くことです。自己の生き方や社会の未来に思いを巡らすなかで、時に、様々な事態を想定して見ることです。心の準備があれば、挫折や失敗に遭遇したときも致命的にはならず気持ちを切り替えて前向きに生きていくことができるでしょう。多様性の時代を生きる気構えとして心に留めていただきたい。

今日の我々が生きる現代社会は、劇的に変化し、万人が認める正解のない社会です。残念ながら我々大人は、皆さんに確固とした幸せの未来予想図を示すことはできません。そうした中、理不尽に憤り、失意に沈み、不安に苛まれる経験が必ず訪れます。

しかし、卒業生の皆さん、ひるむことはありません。いかなる事態においても、ぶれない信念を確立する素地は、高校までの学生生活で培われています。校訓のもと、培ってきた「創造性・礼節・挫けない逞しさ」、校歌に込められた「磨いた知性、郷土への敬愛の念、試練にひるまぬ強き大志」を胸に、しなやかに生きていくものと確信しています。

次に、在校生の皆さんにも一言申し上げます。三年生の皆さんが、本日、めでたく卒業していく中、明日から本校を背負っていくのは、在校生の皆さんと我々教職員です。本校の主役は、在校生の皆さんとなります。代々受け継がれてきた伝統を重んじるとともに、さらに、よりよい校風をつくりあげていこうではありませんか。

その校風とは、「文武不岐」の精神です。一般的に「文武両道」と言いますが、そもそも、文と武は分けがたいものです。精神と肉体が一对をなすように、勉学と部活動や学校行事、学生生活においてそのどれにも力を抜かずに取り組むことが大切です。学習のみに偏って頭でっかちでは困る。部活動や遊びばかりで学習を疎かにするようでは本末転倒です。文と武に、バランスよく取り組んでいくことが学生の本分と心得てください。「これからは、自分たちが『緑』を担っていきます」という、強い気概のもと、卒業していく先輩達に、更なる発展を約束するとともに、これから入学してくる後輩達に誇れる緑丘高校となるよう、「チーム緑」で前進していきましょう。

ここで、保護者やご家族の皆様へ、心からのお祝いとお礼を申し上げます。お子様の卒業、誠にありがとうございます。今日の日を一日千秋の思いで迎え、立派に成長されたまぶしい姿を目の当たりにし、きっと、万感の思いがこみ上げているものと、推察申し上げます。お子様は、期待と不安を抱いて入学した日から、友と語り、友情を育み、固い絆に思いを寄せ、時に、笑い涙し、悩みや不安を乗り越え、三年間の高等学校の課程を修了しました。この間、陰日向なく支え、限りない愛情を注いで育てあげられましたことに、改めまして敬意を表し、お祝いを申し上げます。この青年たちから心を離すことなく、今後も、家庭や地域と学校が手を携え、人生の先輩として見守っていきましょう。

また、三年間にわたりまして、本校の教育活動の推進のために、温かいご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

終わりになりますが、卒業生の皆さんを育んだ、この稀府の温もりをいつまでも忘れないでいてください。そして、それぞれの道に自信と誇りをもって、いつまでも健康で力強く歩んでいかれることをお祈り申し上げ、式辞といたします。

名残は尽きませんが、万感の思いを込めて、

「後悔なんかしてられない、したいことが多すぎる。進め、進め」

平成29年3月1日 北海道伊達緑丘高等学校長 吉瀬献策